

イノシシ捕獲に係る取組状況について（速報）

1 野生イノシシの捕獲頭数（速報）の推移（表1、資料1-1）

2022年度2月末時点の野生イノシシの捕獲頭数は、豊橋市166頭（前年度同時期：100頭）、田原市176頭（同：113頭）となっている。

年間の捕獲頭数については、直近5年間で最も少なかった前年度と比べ、4～6割増加している。月ごとの捕獲頭数については、特に7～10月の捕獲頭数の増加が顕著である。

また、県が田原市内で実施している指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲頭数は、47頭（同：35頭）と昨年度と比べ3割程度増加した。

地区ごとの捕獲頭数について、表浜沿い緑地（赤羽根・田原東部・豊橋南部）を除き、いずれの地区も前年度と比べ増加しており、特に大山山塊や宇津江では、前年度の2倍以上と大きく増加している。

表浜沿い緑地について、全体としては、近年横ばい傾向だが、豊橋南部では前年度と比べ増加している一方で、赤羽根、田原東部については、前年度の半分以下と大きく減少している。

表1 野生イノシシの捕獲頭数の経年推移（狩猟による捕獲を除く）（頭）

市／年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022*
豊橋市	210	251	220	160	111	166
田原市	275	271	492	270(66)	122(35)	176(47)
計	485	522	712	430(66)	233(35)	342(47)

（ ）書きは、指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲頭数で内数

※2月末時点の速報値

2 CPUE^{※1}（捕獲効率）の推移（図1）

県が実施している大山山塊を中心に実施している指定管理鳥獣捕獲等事業について、箱わなのCPUEについては近年増加傾向にあるのに対し、くくりわなのCPUEは減少が続いている。

市が実施している有害捕獲のCPUEの推定値^{※2}については、いずれの猟法も概ね横ばい傾向にあった。

※1 生息密度の指標。単位捕獲努力量当たりの捕獲頭数を示す。

※2 わなの稼働日数を365日と仮定して推定

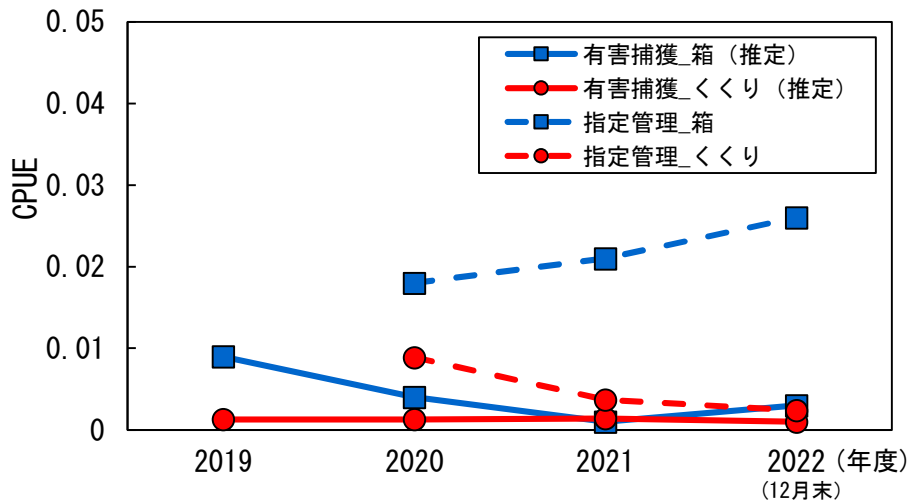


図1 CPUEの推移

3 捕獲イノシシの年齢査定の結果（資料1-2、図2）

捕獲野生イノシシの歯列による年齢査定の結果、成獣（1歳以上）の割合は2月末時点で、約5割程度で、直近3年度は増加傾向にある。

2022年度の捕獲イノシシの事業・猟法別の成獣の割合について、箱わなと比べ、くくりわなの方が高い傾向がある。

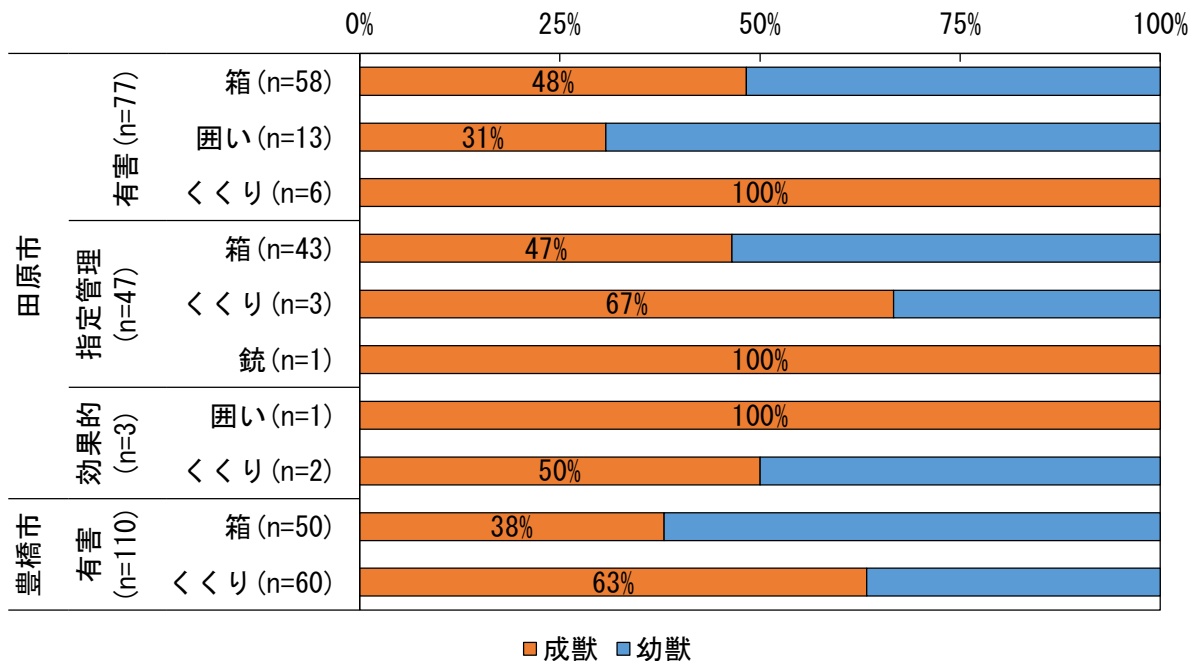


図2 捕獲イノシシの事業・猟法別の成獣比の割合

4 その他

県内の地域ごとの捕獲頭数について、東三河地域、新城設楽地域を中心に、ほとんどの地域において、2021年度と比べ増加しているが、豚熱の陽性個体が確認されている西三河地域の一部の市町村については、2021年度と比べ減少している。